

この夏を彩る、青春の1ページ

錦城祭が開催されました！

9月12日(土)、13日(日)に錦城祭が行われた。『共鳴波動 綾なせ、もたらせ、錦城波』をテーマに盛り上がった2日間をまとめたニュースをお伝えする。

大回転ティーパーティー！

1Aの企画は「迷い込んだら最後！ティーパーティー」というストーリーだ。教室の真ん中には大きなティーカーップがあった。来場者は

ティーパーティーにたどり着いて、ティーパーティーから現代に帰れることができるのかというストーリーだ。教室の真ん中には大きなティーカーップがあった。来場者は

はトランプたちと楽しく、ぐるぐる回るというアトラクションだ。ティーカーップのサイドにはハートやスペードなど、トランプの模様が施されており、カップもアリスがモチーフとなっている。1Aは不思議の国のアリスの世界の魅力がたっぷりなクラス企画を体験させてくれた。

メイドさん達にたいま

1Dの企画は「おかえりな祭」。日本の伝統的な縁日とかわいらしいメイドを掛け合わせたユニークなコンセプトだ。会場では可愛いメイドさんたちがお出迎えしてくれていた。遊べるゲームは4つ。射的・もぐらたたき・スーパードールすくい・輪投げを楽しむことができた。



アリスの世界にご招待！ こだわりの装飾にご注目！

1Dの生徒は「クラスの人も楽しめるし、来場してくれた人も楽しめるような企画にしました」と話した。



おいしいクレープいただきます

2Dの企画は、「Dee

錦城祭実行委員長が振り返る

「パワーアップした錦城祭を届けられた」

錦城祭を振り返って

今年も大成功を収めた錦城祭。錦城祭実行委員長の和田瑞樹さん(2B)によると、本部生徒の協力で昨年よりパワーアップした錦城祭を届けることができたという。ただ、整理券の運営を各団体に任せ、また、今回作成した錦城祭



スマホ利用について話す

長い時間待ち列ができてしまった団体があったり、企画の配置ミスでお化け屋敷が並んでしまったエリアがあったりなど多くの反省点があるのだと話す。「今年の反省点、特に整理券などは来年にいかしてほしいです」と和田さん。

スマホ撮影 来年も続けたい

H Pについて、公開から今までおよそ8000人、9000人の人がH Pを見ていたそう。来年にも引き継ぐ予定だという。

伝説のたこ足を求めて

2Dの企画は、「Dee



錦城生越えを目指すクイズ

城祭当日のスマホ利用を可能にし、電子決済やデジタル整理券などを導入したかったそう。来年も続けてほしいです。実行委員会、中央委員会に期待です。後夜祭でのスマホ利用だけでなく普段の使用などにもつながってほしいです」という和田さん。和田さんは、そのためには普段から生徒が校則を守ることが大事だと呼びかけた。(菊)

錦城生の個性が炸裂！

錦城生よりも賢いの？

3Dの企画は、リアルに錦城生徒とともにクイズを楽しめる「クイズ！あなたは錦城生より賢いの？」。全十問の錦城生クイズは難易度が中学生以下、高校(一般)、錦城三年生と設定がされている。さらに救済措置があり、苦手の教科



FINALからあげ

てお菓子や飲み物などの景品もあり、達成感を感じることができた。

盛りだくさんの展示

文芸部では、過去の部誌を展示する「錦文代」が行われた。制作した第69号の部誌「天舞」を配布。文芸部員それぞれのおすめの本を紹介しており、来場者はどの本が一番読みたくなったか投票することができた。その横には、来場者たちが書き込みした「色んな人がたくさん書いていて面白いです」と来場者は笑顔をみせた。今回の本紹介に投票がリレー小説を行うことで、部員オリジナルの錦文代シールをもらうことができた。



並盛りでも食べ応え抜群

また、新聞委員会、文芸部、写真部、放送部のコラボ企画「錦城文化部響鳴」の「波」を超えられるのか？の1とジュシーな豚肉、歯ごたえ抜群の野菜が口いっぱい広がった。お昼ご飯にぴったりの食べ応えのある焼きうどんだった。

錦城祭オープニングセレモニー



舞台上で錦城祭のテーマを書く書道同好会

9月12日(土)、第一体育館にて、オープニングセレモニーが開催された。生徒たちは錦城祭に出店する各団体の制作した紹介動画を視聴。書道同好会は生徒の目の前で今年の錦城祭のテーマである『共鳴波動 綾なせ、もたらせ、錦城波』を書く書道パフォーマンスを行った。そして、錦城祭実行委員長の和田さんの開幕宣言で錦城祭が始まった。(梅)

錦城祭新聞企画実施！

男女の制服とAIについて考えました

錦城祭期間中、2階のラーニングスペースにて新聞委員会は「錦城新聞採録記〜現代社会の波を乗りこなせ！〜」の企画を行い、学校でのジェンダー格差やAIの使用について取り扱った過去の紙面の展示を行った。今回の企画では、男女で制服を交換し、学校での男女間の制服の差について考えたほか、錦城の4つの文化部である、文芸部、放送部、写真部、新聞委員会の4つの団体の創作物とAIの作品を来場者に比較してもらった。(蓮)



女子制服を着た男子生徒

気になる結果は裏面へ

むらさき草

コンビニの惣菜コーナーに、美味しそうなおにぎりの広告が流れていた。私はハムチーズサンドを買った。買ったのは「これは「ライミング効果」と呼ばれている。見たたり聞いたたりしたもの、その後の行動が無意識に影響を受けることを指すそう。ノールマンの実験によると、「SOUP」の空欄にアルファベットを補充するよう言われたとき、食べ物画像を見たあとは「SOUP」、お風呂の画像を見たあとは「SOAP」という単語を完成させた人が多かったという(マケフリモ「ライミング効果」無意識に買ってしまう心理学とは「参照」)ライミング効果は日常生活に活用できる。イェール大学の心理学者ジョン・パーク教授は、実験で学生を3つのグループに分け、それぞれ肯定性、忍耐、攻撃性に関連する文章を並べ替えた。すると、肯定性、忍耐に関連する文章を並べ替えたグループよりも、攻撃性に関連する文章を並べ替えたグループのほうが、待ち時間に苛立ちを感じたのだという。ライミング効果で、学生たちが無意識に影響を受けていたことが実験で明らかになった(THE DECISION LAB Ed「Printing」参照)▼編集部はいつも締め切りに追われている。アットホームな雰囲気、慢心を生み、記事を書く手が進まないのも一因だ。そこで、「時間有限」「時は金なり」などの言葉を紙に書き、編集室の目につく場所に貼っておこうと思う。しばらくすれば、ライミング効果で「締め切りは守るもの」を無意識に植え付けられた部員たちが、締め切りまでに記事を仕上げられるはずだ。楽しみである。(翠)

文藝部

ChatGPTに「あなたは芥川賞受賞作家です。550文字程度で宇宙をテーマに小説を書いて」と指示し生成しました。

AI制作

秒針の向こう側
レイは、無重力室で母の時計を巻いた。カチ、カチ、と静かな金属音が響く。もう、時計など必要のない時代だった。船は光より速く進み、時間さえ原子時計が管理している。それでもレイは、母の指が触れていた古い機械式時計を捨てることができなかった。観測窓の向こうで、赤色巨星が崩れ潰れていく。
『星の残照、発生まで三秒』

生徒制作

地球最後の一人
『二〇XX年九月下旬、地球から見える月は煌々と輝きつつ、我々に接近してきている。数十年もしないうちに、地球は月と衝突して粉々に砕け散る運命だった。しかし、科学技術の目覚ましい発達によって人類は既に第二の地球(セカンド・アイ)を発見し順次移住も進めていたのだ。そこで終末の空気が漂っているわけではなかった。』

二.

突然、闇のなかに空が現れた。どこまでも澄んだ青い空。白い雲が、何も知らないように流れていた。レイは息を止めた。窓辺に立つ母の背中が、一瞬だけ見えた気がした。
『つか、あなたにも分かるわ』
遠い日の、雨の記憶。あの頃のレイには、意味が分からなかった。ただ、母の濡れた髪の毛の匂いだけ覚えていた。けれど今、どこに

止める。実際は、移住先の治安が問題だった。
周知の通り、潮の満ち引きは月の引力によって起こる。そしてもう一つ、一般には知られていないが人間の感情の起伏もまた月によって引き起こされる点があるということが分かっていた。ただし、第二の地球には月にあたる衛星がない。即ち、移住した人々には喜怒哀楽の限界がなく、感情のコントロールを失いつつあった。再び筆を執る。
『しかしながら、移住先の地球

には治安維持の観点から重大な問題があることがわかっていく。月及びそれにあたる衛星が存在しないために、海洋と同じく、人々の感情の波が制御を失い荒れ狂っているのだ。そのため私は、地球脱出計画に反対する。感情というものは画一的なものではなく、それらが寄せては返し、独特な模様を繰り出すからこそ感情たりうるのではないか。人間であるために必要な感情を捨てても生き延びたいとは、私は思わない。』

「AIのほうが好き」 84票 60%

「生徒のほうが好き」 55票 40%

部長・市川乃愛さん(2A)

AIは万人受けする作品を書く。でも人間が書いた作品は、万人受けはしないかもしれませんが、作家の経験が表れ、作家独自の言い回しや癖があると思います。

顧問の設楽先生

AIが書いた小説は、上手だと思う。でも、普通だなとも思う。AIは過去の良い小説を取り入れるのが上手だなと感じます。人がこれまで好きだと言ってきたものたちがちりばめられている。一方人間は過去に影響を受けつつも新しいものを作ろうとしている、それは少なくとも一人の人間(筆者)が好んでいるので、他の人間にも受け入れられる可能性がある。自分はそれがいなと思います。

錦城文化部響鳴 4団体合同企画 「AI vs 生徒」~どちらの作品が好き?

放送部

「音読さん」という朗読サイトで文章を読み込ませ、男性アナウンサーの声を指定し、AIの音声を生成しました。

錦城祭当日に流していた、二つの音声をQRコードにしました。どちらがどちらの音声だったのか、また聞いていない人もどんな違いがあるのか、ぜひ聞いてみてください！初めに流れる音声が放送部員の読んだもの、次に流れる音声がAIの読んだものです。

なお、放送部員とAIが読んだ原稿は錦城高校新聞のコラム「むらさき草」。全文読みたい方はぜひ錦城HPに掲載されている492号を読んでみてください！



「生徒のほうが好き」 43票 88% 「AIのほうが好き」 6票 12%

AI音声と人間の肉声を聞き分ける際に特に違和感を持ちやすいのが、イントネーションです。本来そこに存在したはずの「間」をAIはきれいに隙間なく埋めてしまうことで、聴き手に強い不快感をもたらしていると考えます。今回の企画では金銭的、時間的制約によりAIのポテンシャルを十分に引き出しきることはできなかったと分析します。

そして、今回の企画でAIを適切に放送で活用する方法も見えてきました。AIが人に勝る最大の強みが収録(生成)時間です。イントネーションの違和感という課題もありますが、僅か数分で一定水準以上のクオリティを持つ音声を作れるのはとても魅力的だと感じました。この経験を糧により良い放送やドラマ制作を目指し、AI音声の特性を活かした実用的な活用方法を模索していきたいです。

部長・山田歩武さん(2G)

編集後記

生徒とAIで同じテーマで作品を作った。写真部は同票、文藝部や新聞委員会は生徒が制作したよりもAIが制作した作品が好きな人が多かった。AIは今までのよい作品を読み込み、反映させる。人の感性もわかってきて、それに合わせた作品を生み出せるようになっていくようだ。そして、AIは作品を数秒で制作する。部員の声を聞いていて、AIが結果を重視するのに比べ、生徒は作品を制作する過程を大切にしているのだと感じた。タイムパフォマンズがとてよいAI作品だが、部員は背景や込められた思いを大事にするため、AIを全面的に肯定しないのではないだろうか。
さらに、部長たちと話している中で話題に上がったのは、投票に参加してくれたお客さんの中に、好みではなくAIか人間かを判断して投票する人も見受けられたことだ。この光景はどの団体でも見られた。なぜAIか人間か、どちらが作ったのか気になってしまうのだろうか。
今回の企画を通して生まれた疑問を今後の特集で深めていきたい。

生徒制作の記事を読み込ませ、Geminiに「文字数を変えずによりわかりやすい記事にして」と指示し生成しました。

新聞委員会

AI制作

見出し1:中央委員会が「こどもまつり」に初出店!かき氷で深める地域の絆
見出し2:テーマは「居酒屋」!熱中症予防と交流を目指して
8月29日(土)、小平市中央公民館で開催される「友・遊こどもまつり」に、中央委員会がかき氷店を初出店する。企画を担当するのは金子優歩さん(2L)と石井裕那さん(2L)。テーマは居酒屋。熱中症予防と交流を

見出し1:中央委員会が「こどもまつり」に初出店!かき氷で深める地域の絆
見出し2:テーマは「居酒屋」!熱中症予防と交流を目指して
8月29日(土)、小平市中央公民館で開催される「友・遊こどもまつり」に、中央委員会がかき氷店を初出店する。企画を担当するのは金子優歩さん(2L)と石井裕那さん(2L)。テーマは居酒屋。熱中症予防と交流を

対面するのが今から楽しみです」と意気込んだ。この企画は地域向けで、お祭りに行っても錦城生がかき氷を食べることはできない。ただ、錦城祭でも中央委員会はかき氷の出店を予定しており、錦城生も食べられる。石井さんは「錦城祭では、ぜひ食べに来てくださーい!」と呼びかけた。

顧問の稲垣先生

「わかりやすい記事に」という指示にAIが朝日新聞など一般紙を参照しているならば、今回AI記事に軍配が上がった理由は「経験の差」かもしれません。例えばAI記事の最後の段落の「なお」は、生徒記事の「ただ」より日本語の展開が自然。5W1Hを読みやすく定型でまとめるならば、もうAIのほうが優れているのでしょう。だからこそ、皆が気付いていないことをキャッチする「実際に見て、話を聞いて掘り起こす」取材に挑戦することが、大事になると感じました。

委員長・飯田夏乃香さん(2I)

今回は記事のみの比較となりました。私たちが制作した記事の冗長な部分が、AI記事ではすっきりとしたと感じました。さらに速報性という面でも記事制作にかかった時間がAIのほうがはるかに短いです。今回は完成した記事を読み込ませる形でAIが制作しましたが、情報のみを与えた場面ではどうなるのか、今度試してみたいです。

AI制作



部長・渡邊昂さん(2B)

AIの作った写真と人間が撮った写真は一見同じ写真に見えるけど、プロセスが違います。AI自体を批判するわけではないですが、画像や写真という分野で「AIでもよくない?」と言われるのは、畑違いだと思います。

写真部でも人間が撮った写真をAIで編集することはあります。完全AIで作られた写真と人にとった写真をひとくくりにはしないでしょう。

写真は、その場所に行くことが大変であるなどの過程も評価されます。最初にAIの写真を見た時、ただの海ではなく、AIが一般的な「いい写真」のイメージをわかっているなど気付き、正直生徒側が負けると感じました。同票まで持ち込めたのは、部員の技量があったからだと感じます。

顧問の門前先生

生徒制作

見出し1:中央委員会 こどもまつり出店へ
見出し2:地域の結びつきを強くできた
8月29日(土)に小平市中央公民館で行われる「友・遊こどもまつり」に、中央委員会がかき氷の出店をする。今回の企画を担当しているという金子優歩さん(3I)と石井裕那さん(2L)と向田りんさん(2L)。テーマは居酒屋。熱中症予防も兼ねて、かき氷を

対面するのが今から楽しみです」と意気込んだ。この企画は地域向けで、お祭りに行っても錦城生がかき氷を食べることはできない。ただ、錦城祭でも中央委員会はかき氷の出店を予定しており、錦城生も食べられる。石井さんは「錦城祭では、ぜひ食べに来てくださーい!」と呼びかけた。

対面するのが今から楽しみです」と意気込んだ。この企画は地域向けで、お祭りに行っても錦城生がかき氷を食べることはできない。ただ、錦城祭でも中央委員会はかき氷の出店を予定しており、錦城生も食べられる。石井さんは「錦城祭では、ぜひ食べに来てくださーい!」と呼びかけた。

顧問の稲垣先生

「わかりやすい記事に」という指示にAIが朝日新聞など一般紙を参照しているならば、今回AI記事に軍配が上がった理由は「経験の差」かもしれません。例えばAI記事の最後の段落の「なお」は、生徒記事の「ただ」より日本語の展開が自然。5W1Hを読みやすく定型でまとめるならば、もうAIのほうが優れているのでしょう。だからこそ、皆が気付いていないことをキャッチする「実際に見て、話を聞いて掘り起こす」取材に挑戦することが、大事になると感じました。

委員長・飯田夏乃香さん(2I)

今回は記事のみの比較となりました。私たちが制作した記事の冗長な部分が、AI記事ではすっきりとしたと感じました。さらに速報性という面でも記事制作にかかった時間がAIのほうがはるかに短いです。今回は完成した記事を読み込ませる形でAIが制作しましたが、情報のみを与えた場面ではどうなるのか、今度試してみたいです。

写真部

「写真コンクールで受賞するような「海」をテーマにした画像(人が写っていない)を、画像の比率し判縦でつくって」と Gemini に指示し、AIの写真を生成しました。

「生徒のほうが好き」 238票 50%

「AIのほうが好き」 238票 50%

生徒制作

